

『2015年敷島公園まつり』
群馬の魅力、大発見！

森林整備部 技術普及課

関東森林管理局では、昭和51年から毎年春に、森林・林業や国有林野事業をPRする「グリーンフェア」を実施してきました。今年は4月29日、県立敷島公園で行われた「敷島公園まつり」の会場内に設けられた「グリーンゾーン」において、関東森林管理局ブースとして参加し、(公社)群馬県緑化推進委員会、(一財)日本森林林業振興会前橋支部、日本野鳥の会群馬、NPO法人ぐんま緑のインタープリター協会とともに、「みどり」を守り・育て・活かすことの大切さを発信しました。

この日は晴天にも恵まれ、敷島公園には昨年並の約2万6千人もの方が来場し、関東森林管理局のブース



親子で楽しく【しおり作り】
(技術普及課)

にも昨年を上まわる程の来場者が途切れることなく訪れ、順番待ちを待っていた程大いに賑わいました。当日は、技術普及課と赤谷森林ふれあい推進センターが協力して、「木のしおり」作りや「ロケット・リーフ」「森のカケラのストラップ」作りの体験等を行いました。



大賑わいで順番待ちの
【しおり作り】(技術普及課)

しおり作りでは、子供たちだけでなく親子で参加して、色紙の台紙にモミジなどの押葉を自由に貼り付けたり、カラーペンで模様を書き込んだりして、オリジナルのしおり作りだりして、取り組む様子が見られました。中には、台紙に収まりきらぬような大きなモミジを大胆にそのま

ま貼り付けたり、自分たちで公園内で摘んできた色とりどりの草花を加えたりするなど、大人を勝る子供ならではの発想で様々なデザインのしおりが作られていました。



飛ばしてみよう!
ロケットリーフ作り
(赤谷森林ふれあい推進センター)

空飛ぶタネの模型「ロケット・リーフ」作りでは、樹木のタネがぐるぐる回りながら舞い降りてくる様子に興味を持ち、職員からの作り方の説明を親子で熱心に聞いて、自分で作ったロケット・リーフを飛ばして歓声をあげていました。

「森のカケラのストラップ」では、子供達がヒノキの木片を使ったオリジナルのストラップを作って、木の肌触りや香りを「気持ちいい」「いい香り」と喜んでいました。

この他、グリーンゾーンでは、(公社)群馬県緑化推進委員会、群馬県、前橋市、(一財)群馬県森林・緑整備基金、関東森林管理局が連携



今年も大盛況の苗木配布会
(志田局長)

し、「緑の募金推進中央キャンペーン」として苗木配布会を開催し、モッコウバラ、ハナカイドウ、アンズ、ブルーベリーの苗木を配布して、広く緑化の普及を図るとともに、緑の募金へのご協力をいただきました。



立木を感じよう!
森のカケラのストラップ作り
(赤谷森林ふれあい推進センター)